
ロベルト・シューマン『音楽と音楽家』出版の契約成立までの経緯

——抄訳：シューマンと出版社のあいだで交わされた手紙

永井文音 愛知県立芸術大学大学院音楽研究科博士前期課程（音楽学）

はじめに

ロベルト・シューマン Robert Schumann (1810-1856) の『音楽と音楽家 *Gesammelte Schriften über Musik und Musiker*』は、彼が自身の音楽雑誌『新音楽時報 *Neue Zeitschrift für Musik*』で 1834 年から 1844 年のあいだに書いた記事を、みずから厳選して編んだ著作集である。彼は、1846 年から著作集出版のため記事の選出に取りかかり、1852 年に作業のほとんどを終わらせた。その後、すぐに出版社探しがはじめられたが、契約相手を見つけるまでには約 1 年半の時を要した。というのも、シューマンの「雑誌からの論考を集めた著作集」という企画は、出版社にとって非常に難しいものだったからである。

しかしシューマンは、最初の交渉相手であるブライトコプフ・ウント・ヘルテル社（表のなかではブライトコプフ社と記載）から出版を断られた後も、ほかの出版社との交渉を重ねた。その結果、彼が直接、あるいは仲介人を通じて連絡を取った出版社は、合計 6 社にのぼった。ブライトコプフ社の後には、シューベルト・アンド・カンパニー社、ブロックハウス社、バルトルフ・ゼンフ社、ブルーノ・ヒンツェ社、ヴィーガント社と続いている。

『音楽と音楽家』をめぐる出版社や仲介人とシューマンのあいだで交わされた、合計 32 通の手紙は、記録が残っているのみで長いあいだ消失したと考えられていたが、現在はポーランドのクラクフにあるヤギェウォ図書館に所蔵されている。広く使用されているシューマンの書簡集 (Jansen 1904) には、そのうちわずか 2 通しか収録されていないため、やり取りの詳細について知ることができない。しかし、ゲルト・ノイハウス『『音楽と音楽家』前史についての文書』(Nauhaus 1989) では、消失した 4 通の手紙を除く 28 通の全文を読むことが可能である (表 1 参照)。そのうち 16 通 (表の 1 ~ 20 の手紙) が契約成立までに交わされたもので、残りの 12 通 (表の 21 ~ 32 の手紙) は業務連絡や校正作業にかんするものである。

表1：『音楽と音楽家』出版をめぐるシューマンと出版社の手紙（全32通）一覧

	年	月	日	差出人	受取人	書簡集 ⁱ	現存 ⁱⁱ
1	1852	6	3	シューマン	ブライトコプフ社	○	○
2			8	ブライトコプフ社	シューマン		○
3			13	シューマン	シュールベルト・アンド・カンパニー社		
4			23	シュールベルト・アンド・カンパニー社	シューマン		○
5		11	17	シューマン	ブロックハウス社 ⁱⁱⁱ	○	○
6			27	ブロックハウス社	シューマン		○
7		12	9	シューマン	ブロックハウス社		
8			31	ブロックハウス社	シューマン		○
9	1853	1	5	シューマン	ゼンフ社		○
10		2	1	シューマン	ゼンフ社		○
11			2	ゼンフ社	シューマン		○
12			7	シューマン	ブロックハウス社		
13			28	ブロックハウス社	シューマン		○
14		7	11	シューマン	フランツ・ブレンデル		○
15			29	フランツ・ブレンデル	シューマン		○
16		11	16	シューマン	カール・フォイクト		○
17			19	カール・フォイクト	シューマン		○
18			21	シューマン	ヴィーガント社		
19			25	ヴィーガント社	シューマン		○
20			29	シューマン	ヴィーガント社		○
21		12	15	ヴィーガント社	シューマン		○
22			23	シューマン	ヴィーガント社		○
23	1854	1	18	シューマン	カール・フォイクト		○
24			24	カール・フォイクト	シューマン		○
25		2	2	シューマン	ヴィーガント社		○
26		2	6	ヘルマン・ヘッセル	シューマン		○
27			8	シューマン	ヘルマン・ヘッセル		○
28			11	ヘルマン・ヘッセル	シューマン		○
29			14	シューマン	ヘルマン・ヘッセル		○

30		20	ヘルマン・ヘッセル	シューマン		○
31		22	クララ・シューマン	ヘルマン・ヘッセル		○
32	3	12	クララ・シューマン	ヘルマン・ヘッセル		○

-
- i Robert Schumanns Briefe: Neue Folge. Edited by F. G. Jansen. Leipzig: Breitkopf und Härtel, 1904. に収録されているものに○をつけた
- ii 現存しているものに○をつけた。なお、○がついているものはいずれも、ゲルト・ノイハウス『音楽と音楽家』前史についての文書』に全文が収録されている
- iii 書簡集では「ヴィーガント社」とされているが、正しくはここにある通り「ブロックハウス社」である

以下では、出版の契約が成立するまでに交わされた 16 通の翻訳を、適宜割愛しながら掲載する。見出しの番号は前掲の表と対応している。なお文中にある [] は、省略部分あるいは訳者による補足をしめす。

抄訳：シューマンと出版社のあいだで交わされた手紙

1. 1852 年 6 月 3 日

ブライトコプフ・ウント・ヘルテル社へ シューマンより

本日は特別にご提案をさせていただきます。あなたに私の出版社になっていただきたいのです。とはいっても、これまでそうであったような楽譜の出版社ではなく、書籍の出版社に。つまりは、このような事情なのです。

しばらく前から、私は自分が編集した音楽雑誌のバックナンバーに目を通すようになりました。するとメンデルスゾーンが全盛期を迎えていた時代までの生涯のすべてが、目の前でますます豊かに展開していったのです。そしてふと思いつきました。あの波乱に満ちた時代を生き生きと映し出し、じっさい少なからぬ若手芸術家たちに自己体験や経験についての啓発的なヒントを与えた、さまざまに書き散らした文章を、あの時代、そして私自身の思い出のために、1冊の本にまとめてみたいと。私はすぐさま仕事に取りかかりましたが、データの分量

が多かったために、大変な仕事になりました。現時点ではほとんど完成しておりますので、全体を見渡すことができます。

私の見積もりでは、だいたい2巻構成となり、それぞれが印刷全紙で25-28枚〔400-448ページ〕ほどになるかと思います。同封の資料に、内容紹介とともに、タイトルを示しておきます。J. v. W. というのは、資料整理に際して私を忠実に手伝ってくれたフォン・ヴァジーレフスキー (von Wasielewski) 氏のことです¹。〔中略〕

親愛なる社主さま、私の提案をどうかご検討いただけますようお願いいたします。当然ながらできるだけしっかりとした版にしたいですし、全体の作業を始める前にフォーマット、印刷、紙の試し刷りを確認できればと思います。また、2巻が同時に刊行されるよう希望しております。〔以下略〕

2. 1852年6月8日

シューマンへ ブライトコプフ・ウント・ヘルテル社から

〔前略〕さて、今月3日にいただいた大切な出版のご提案についてもお話ししなければなりません。誠に遺憾なのですが、私どもはあなたのご希望に、つまりは私たち自身の希望でもあるのですが、これに添うことができないのです。雑誌から論考を集めて著作集を編纂する企画ほど、出版社にとって難しいものはないのです。私どもがこんな一般論を述べているからと言ってお怒りにならないでください。出版業界には、このような一般論からなる経験が存在しており、今回の事例も同様のものなのです。残念ながらほとんど例外がないほどに、これは極めて一般的な見解となっているのです。〔以下略〕

3. 1852年6月13日

シュペルト・アンド・カンパニー社へ シューマンより (消失)

4. 1852年6月23日

シューマンへ シューベルト・アンド・カンパニー社より

[前略] あなたの文学的・音楽的な著作集を最高の出版社のもとで刊行したいのであれば、ブライトコプフ・ウント・ヘルテル社のようなところに頼んだ方がいいでしょう。私のところで取り上げててもよいのですが、今はまだ多くの作品や原稿を抱えているのです。

5. 1852年11月17日

ブロックハウス社へ シューマンより

[前略] 本日は特別な用件があってお手紙を書かせていただきました。私は多くの友人から促され、ここ最近の音楽や音楽事情にかんする私の文学的な著述をまとめ、筆を加え、さらに増補しております。ばらばらに、ほとんどは署名もないままに、『新音楽時報』のさまざまな巻に掲載された文章を、自分自身への思い出として本の形態で刊行したいと思っています。もしかしたらそれは、作曲家としての活動でしか私を知らない人にとって、興味深いものになるかもしれません。

この本で利益を上げるようなことに興味はありませんが、当然ながら十分に手をかけていただくことを希望しております。[以下略]

6. 1852年11月27日

シューマンへ ブロックハウス社より

[前略] あなたの「最近の音楽上の出来事にかんする記録」を我が出版社にゆだねたいというお申し出に、心より感謝申し上げます。このような著作物は、私の企画する範疇から少し外れてはおりますが、私が全般的にあなたの意向に沿うつもりでいるということは言うまでもありません。しかし当然ながら、ビジネス的な側面を無視するわけにはまいりませんので、私自身の観点からもっと詳細にこの企画について検討するまでは、最終的なお返事は今のところ保留とさせていただかなければなりません。そういうわけで、もしあなたがご親切にも、校了を終えすぐに印刷に回せる原稿を私宛てに送付してくださり、同時

に決めておく必要があるとお考えの条件を示してくださるならば、私はすぐにでもお返事を差し上げられる立場にあるのです。見積りはこの件ではあなたの要求に応じますし、もしあなたの著作集を私の出版社から刊行できることになれば、それに勝る喜びはありません。[以下略]

7. 1852年12月9日

ブロックハウス社へ シューマンより (消失)

8. 1852年12月31日

シューマンへ ブロックハウスより

12月8日付のあなたの手紙を、「最近の音楽上の出来事にかんする記録」の原稿と一緒に受け取りました。ありがとうございます。[中略] 私の個人的な志向に従うことができるとしたら、この著作を自身の出版社から刊行できることは喜ばしいことだと思います。ですが、私はあらゆる企画において、出版業者のほうに優位な票を投じざるを得ず、この観点から言えば、自身の憂慮の想いを抑えることができないのです。この作品は、ある特定の集団のあいだでは間違いなく歓迎されるでしょうが、一般的な関心を勝ち得ることができるかと言えば、私の経験に照らしてみても疑いの余地があります。

こうした観点から私は、報酬のことはさておき、製作のために少なからぬ経費を必要とする書籍の刊行を、引き受ける勇気を持ってません。それにくわえ、私はこれまで音楽的著述の類からは距離を取ってまいりましたので、もっぱらこの種の書籍から売り上げをあげている集団の中で、私は完全に外れた存在なのです。[中略] この作品自体への関心から私は、すでに数多くの音楽的著作集を出しており、その道に通じた読者の集団の中でも有名な出版社、例えばブライトコプフ・ウント・ヘルテルのような出版社に刊行をお願いするようアドバイスすることしかできません。[以下略]

9. 1853年1月5日

ゼンフ社へ シューマンより

今日は特別なお願ひがありまして、お手紙を書きました。つまり私は去年の夏、自身の文学活動の著述をすべてまとめる作業に取り組んでおり、それを「最近の音楽上の出来事から——1834年から1844年までの音楽と音楽家についての記録」というタイトルで出版したいと思っていました。『新音楽時報』にばらばらに掲載された文章は、歳月が経てば失われてしまうでしょうが、それでもそれらの論考の中には、後の世代の芸術家たちが興味を持つようなことがたくさん含まれていると思うのです。

しかし現段階では、私には出版業界のコネクションが欠けておりまして、面識のない実業家相手に自分や自分の本について話すことなどできません。そこで、音楽界における私の立場をご存知のあなたに、出版業者とのさまざまな交友関係を利用して仲介をお願いできないか、お伺いしたいのです。もしそうしていただけるなら、完成した原稿をお目にかけるためすぐにお送りいたしますがいかがでしょう。手短かに申しておきますと、この本は印刷全紙で約60枚[960ページ]に収まるはずで、報酬にかんしてはもっとも安価な条件で私は構わない、ということです。ですので、たしかに小さな企画とは言えませんが、冒險的なものでもないと思うのです。

最後にこの件につきましては、話が進みそうだと思えるとき以外は、どうかどなたにもお話にはならないようお願いしておきます。[以下略]

10. 1853年2月1日

ゼンフ社へ シューマンより

あなたからお返事がないので、私の用件にかんじてあなたが困難に直面したのではないかと想像しております。どうか率直に、そしてできるだけ早くお返事をくださいますようお願いいたします。と申しますのも私はこの件を早く進めたいのです。[以下略]

11. 1853年2月2日

シューマンへ ゼンフ社より

[前略] 書籍業界は全体的に冒険的な企画を立てることが非常に少なく、とりわけ純粋に音楽的な著作を拒んでいます。私はこれまで繰り返し経験してきたのですが、委託されたベルリオーズの「オーケストラの夕べ」の翻訳のために出版社を決めることすら成功していません。あなたの書籍、すなわちオリジナル作品に対しては、わけなく出版社を見つけられるでしょうが、本件で本質的な障害となるのは、当然ながらすでに一度、原稿が印刷されているということです。出版業界の友人たちに出版への意欲を引き起こすことはできませんでしたが、何人かは原稿を見てから判断したいとのことでした。[以下略]

12. 1853年2月7日

ブロックハウス社へ シューマンより (消失)

13. 1853年2月28日

シューマンへ ブロックハウス社より

『音楽と音楽家』にかんする話題が出てこないため割愛]

14. 1853年7月11日

ブレンデルへ シューマンより

[前略] さて、あなたにアドバイスと、可能であれば仲介をお願いしたい事柄があります。私は最近、むかし雑誌に書いていた文学的・音楽的論考をまとめ始めたのですが、それらを抜粋して極めて厳密に改訂した上で、全体を「1834年から44年までの音楽と音楽家についての記録」というタイトルで出版したいと思っています。[中略] そこで私は、この雑誌の現在の出版社にまずはこの話を知らせることがふさわしいと考え、あなたにそれをお願いすることにしましたのです。もしも彼がその気になったら、私から詳細を説明するつもりです。この企画から私は財産を得たいわけではなく、このテキストをいわば私の創造的

な作品と言わせてもらえるならば、自分自身に思い出を残したいのです。ここで申し上げたことは内輪のお話とご理解いただき、ヒンツェ氏以外のどなたにもお話しすることのないように、申し添えておきます。[以下略]

15. 1853年7月29日

シューマンへ ブレンデルより

[前略] これまで書かれた評論や論考の類を出版したいというあなたのお考えは、非常に喜ばしいものだと私は思います。この件について私はヒンツェと話し合いました[中略]。ヒンツェは親戚の詐欺被害によって、しかも今年は多大な損失を出しているのも、彼はそこから抜け出すために共同出資者を探しているような状態です（もちろん、これは単なる報告であって、そこからあなたは口実を設けることはできません）。彼は共同出資者を見つけることができない限り、少なくとも年内は、これ以上の企画に取り組むなどできないのです。そのほかの点では彼の状況は悪くありませんし、今だけ持ちこたえることができれば、来年にはさしたる援助がなくてもまた何かを企画することができるかもしれません。

[中略] 私は自分の本の構想がまとまり、これから印刷に向けて書きはじめるところです。うまくいけば聖ミカエル祭には出版できるかもしれません。そのため、今はせつせとこの仕事に取り組まなければならないのです。

16. 1853年11月16日

フォイクトへ シューマンより

[前略] 私は、あなたもよくご存じの私のむかしの音楽論考を集め、特別な著作集として刊行したいという願いが、あちこちで噂されているのを聞きました。作業はもう終わっています。厳密に選別しましたので、場合によっては次の世代の人たちも、これらの論考が生まれた頃の華やかかなりし時代のことを時々楽しむことができるだろうと、私は思い

ます。

今の私は書籍業界にコネクションがありません。私はそれ [著作集の出版] によって財産を得たいわけではなく、信頼できる出版社と契約を交わして、立派な装丁で書籍が出版されることが重要だと思っています。タイトルは、「1834年から44年までの音楽と音楽家についての記録」です。私は以前から、わけてもJ. J. ヴェーバーやヴィーガントなどの出版社とあなたがお知り合いだったと記憶しています。いずれの出版社も、私にとって申し分ないと思っています。もしあなたが、まだこの方たちとつながりを持っていて、この提案を仲介して下さるのであれば、ぜひ私にお知らせくださいますようお願いいたします。その際には、書籍の規模や内容について、より詳細な報告を私から直接お伝えいたします。[以下略]

17. 1853年11月19日

シューマンへ フォイクトより

おとといの夜あなたのお手紙を受けとって、昨日には友人のゲオルク・ヴィーガントに相談したのですが、彼は受け入れ可能な条件をあなたが提示して下さる限り、ご提案の企画を喜んでお受けする意志があることを、ここに嬉しくご報告させていただきます。[中略] ただ、提案されたタイトルだけはしっかりこないようで、ヴィーガントは特に年号を省略したいとのことでした。そして誠に勝手ながら、音楽と音楽家についての論考集、というようなタイトルはどうでしょうかと提案しています。年号は、ある種の購買者層の売れ行きを妨げてしまうかもしれないのです。ですが、あなたがご提案のタイトルにこだわるのであれば、ヴィーガントのほうもきっとあなたの意志に従うでしょう。[以下略]

18. 1853年11月21日

ヴィーガント社へ シューマンより (消失)

19. 1853年11月25日

シューマンへ ヴィーガント社より

まずは、今月21日付けのあなたのお手紙と著作集の原稿を拝受しましたことをご報告申し上げます。先日、友人のフォイクトに言ったことを直接あなたにもお伝えしておきますと、私はあなたの親切なお申し出を大変うれしく思っており、さらに付け加えさせていただきますと、これから取り組むビジネス上の理由からだけではなく、あなたとこうした関係を結び、このような本を印刷させていただけることは、私にとって特別な喜びなのです。[中略]

この本は、すでに印刷されたものしか収録していないにもかかわらず、非常に注目を集めるのではないかと私は思っています。しかしながらこうした興味は、決して一般的なものではなく、特定の都市に限定されたものになるでしょう。小規模・中規模な都市では、おそらく多くの部数を必要とせず、あちこちにある貸本屋でこの本のニーズを満たすことができるでしょう。そこが厄介なんです——人々は書籍を購入することなく、貸本屋で手に入れられるまで待ちます。こうしたことを考慮に入れると、発行部数を1000部にして、しっかりとした装丁を施すというアイデアが出てきました。サンプルを同封しておきます。この組版ですと、全体でだいたい印刷全紙75枚強[1200ページ]の厚さになるので、4巻本として刊行することをおすすめします。かなり厚めの紙を選びますので、各巻が薄っぺらい形態で出版されることはないでしょう。文章は非常にすばらしく、読みごたえがあります。報酬を決定するにあたっては、あなたの希望が、書籍の店頭価格を釣り上げてしまわないかどうか、それが重要になってきます。例えばあなたがこの4巻本の著作集を、美しいけれどシンプルな装丁にして、店頭価格で4ライヒスターラー以下に抑えたい場合は、最大で400ライヒスターラーの印税²が見込まれます。これがあなたの意向に沿っているかどうか、次の手紙でお伝えいただければと思います。報酬に関しては、どうぞ率直にお話しいただければ、幸いです。私のほうにも同様のことを期待していただいて構いません。この点に関して私たち

が合意しましたらすぐに——お互いに意見が一致しないことなどないとは思いますが——、2月2日には完成した本を出版できるように印刷を開始し、それに全力を尽くす所存です。[以下略]

20. 1853年11月29日

ヴィーガント社へ シューマンより

あなたのお手紙をたった今受け取ったところですが、ご提案のすべてに同意いたします。ただ、通常よりも少し多めの献呈本を、つまり15冊ほど多くお願いできれば、と思っています。私にはたくさんの年上の友人たちが、特にザクセン州におりまして、彼らはこの本の完成をととても喜んでくれると思うのです。この本の装丁も非常に気に入っております。

さて、もう1つ。私はむかしの原稿の中から、まだ多くの（印刷されていない）、大体2-3印刷全紙 [32-48 ページ] にあたるダヴィッド同盟の寄稿を見つけましたので、それを本の中に加えたいと思っています。しかしながら、これらを完全に増補するためには、目次と、各年度の前に挿む間紙が必要になってきます。というわけで、あなたはいつでも本の作業を始めていただいて構いません。[中略]

このように迅速かつ好ましい形で契約関係が結べましたこと、嬉しく思いますし、お互いにすばらしい実りがもたらされることを願っております。

原注

¹ ヴァジーレフスキーが編集作業にあたったとする見解はシューマン自身によって否定され、その後の出版社とのやり取りの中でも二度と言及されることはなかった。ヴァジーレフスキー自身も同様にそのことについては触れず、ヘルテル氏に宛てた手紙の複製の中では対応する箇所を伏せている。

² この印税額は、ヴィーガントによって実際に支払われたものである。

参考文献

Nauhaus, Gerd. "Dokumente zur Vorgeschichte der >Gesammelten Schriften über Musik und Musiker< von Robert Schumann" *Gutenberg-Jahrbuch*, Mainz: Gutenberg-Ges., 1989: pp. 180-201.

Robert Schumanns Briefe: Neue Folge. Edited by F. G. Jansen. Leipzig: Breitkopf und Härtel, 1904.

謝辞

この抄訳を本誌に掲載するにあたって、本学准教授の大塚直先生に添削をしていただき、より正確な言葉の選び方から自然な言い回しまで、ていねいで適切なご助言をたまわりました。ここに感謝の意を表します。